

10月18日(土)に開催決定

秋の講演会「沖縄」に焦点

今年の秋の講演会は、3月に沖縄平和ツアーで3日間ガイドをしてくれた名護市市史編纂に携わっている川満彰さんを沖縄から迎え、現地沖縄の生の声を話していただきます。なぜ沖縄が戦後60年以上たっても基地の島なのか、アメリカはなぜ辺野古の海にさらに基地を作りたいのか、沖縄に本当に基地が必要なのか、私たちはどう考え行動すべきなのか、わかりやすくお話ししていただきます。ご期待ください。

沖縄の民意を無視し続ける

「平和国家」日本

2004～05年の海上ボーリング調査を阻んで以来続けている辺野古座り込みがこの4月で10年。しかし沖縄の民意は無視され続けている。安倍首相は今回の首脳会談で、「普天間移設は強い意志をもって、工事を早期かつ着実に進めていく」とアメリカに伝えている。「じっくり説明する」とか、「理解を求めていく」といながら、やっていることはまったく逆で、強権的にでも移設を強行する構えだ。すでに沖縄防衛局は辺野古沖の21地点

を掘削する工事の入札公告を実施しており、5月には受注業者を決め夏からの海上ボーリング調査を予定している。さらに共同声明には普天間飛行場の早期移設と沖縄の基地の統合が「長期的に持続可能な米軍のプレゼンス(存在)を確かなものにする」と明記されている。辺野古移設は4万トン級の強襲揚陸艦が寄港できる軍港をわせ持つ新基地建設であり、在沖米軍の長期駐留を企図していることは明らかだ。沖縄の負担は減るところかむしろ

増えることになる。平和憲法の下に帰ることを切望して復帰を果たした沖縄に、日米安保条約の下米軍基地の殆どを押し付け、人々の平和的生存権を奪い続けていることに私たちはあまりに鈍感ではないか。「積極的平和主義」を唱えつつ集団的自衛権の行使を目指す安倍政権ならいざしらず、私たちの「平和主義」がこれでよいのだろうか。遅まきながら「辺野古の海にも陸にも基地をつくらせない」と公約した稲嶺氏を選んだ名護市民をはじめ沖縄の人々の「安心して暮らしたい」という思いに応える行動をおこしていきたい。

秘密保護法廃止！野田の会

多くの反対を押し切って昨年11月に成立してしまった「特定秘密保護法」。廃止を求める動きが全国で始まっています。野田でも九条の会だけでなく、いろいろな市民団体が集まって運動を進めようと「秘密保護法廃止！野田の会」準備会が出来ました。

発足集会を6月1日(日)

中央公民館講座室で開きます。講師に東葛法律事務所藤吉弁護士を迎え、あらためてこの法律の問題点を学習します。九条の会では、すでに署名行動も始めています。3月までに180筆の署名はすでに提出し国会に届けています。活動予定は今月の予定欄で確認ください。

今月の予定

5月3日(土・祝) 1:00~4:00
松戸憲法記念日の集い・落合恵子さん講演
松戸市民会館・ホール

5月5日(月・祝) 2:00~4:00
かしわ市民憲法集会・宇都宮健児さん講演
アミュゼ柏

5月9日(金) 5:00~6:00
ボードで9条アピール
秘密保護法廃止署名行動
愛宕駅前 野田九条の会

5月10日(土) 2:00~5:00
野田・九条の会 定例会
櫛のホール4階研修室

5月11日(日) 1:30~4:30
DVD上映会「はだしのゲン III」・意見交換
南部梅郷公民館 南地域九条の会

5月17日(土) 1:30~
流山憲法集会・金子勝さん講演
流山北部公民館

現地で地元の人

話を聞くことで

柳擲一郎

現地に行き、地元の人に話を聞くことは、どんな映像や書物より、事実がわかるということを感じた。痛感した沖縄の旅でした。

金網で囲まれた基地の多くが、沖縄の人たちが住み、耕していた土地であった。戦後になっても追い出しは続き、基地は拡大強化された。明らかに国際

法違反です。

国の安全を守るために、沖縄の人たちに負担と迷惑をかけていると政府や政権与党の人は言います。守るべき国とは何か、考えて見ても、私にははっきりしません。国土とか国民ならまだわかるのですが、国の実態は何なのでしょう。か。実態のはっきりしない国を守るために、沖縄の人たちが犠牲になり続けるなんて、理不尽この上な

いことと思います。

多くのことを見て学びましたが、私は兼箇段の散策と地元の人たちとの交流が印象に残りました。伝統の獅子舞が今も小学生に受け継がれていること、御嶽を中心にした村落が残る、村祭りが行われていることなど、子供の頃の村の鎮守の祭りを思い起こしました。

貴重な伝統・文化に基地は似合いません。安保があるから基

沖縄平和ツアー

沖縄旅行を終えて

小林法子

スケジュールはかなり過密でも行く所行く所イメージを覆す。ガイドさんの博識さ話のうまさ、沖縄戦を体験された方の朴訥なお話等から、今までの沖縄のことを何も知らなかったことを痛感。一番驚いたのは、海がとて陸に近く、何処も青く澄んで美しく、本土の海岸の潮臭さがなく、砂浜がきれいなこと。こんなすばらしい自然を絶対に壊してはならない。又「ひめゆり」の名称の由来。私がこの年頃だったらこんな

活動は絶対できない。それぞれ

のガマの足場の悪さ、空気も光も満足に入らない中で多勢の人々が追い込まれた現実。道の駅屋上での戦闘機が飛び立つ音のすごさ、飛ぶ低さを体感。ヘリポート建設反対、辺野古基地建設反対等、今も続く闘い、三日目の地元の皆さんとの交流を通し、沖縄の人々の芯の強さと暖かさにふれる機会を得て、誰に頼まれたわけでも、強要されたわけでもないのに、私達も自分のできる形で協力していくことを痛感した旅であった。

安保放棄しかない

知久すみ江

沖縄の旅は実に重いものでした。

那覇空港に着いてびっくり。自衛隊の基地が同居しているとのこと。しかも米軍基地を守るために。

多数の戦跡を見学し、日本という国から沖縄がどれほどむごい仕打ち(行政)を受けてきたか骨身にしました。兼箇段の方々との交流に救われた。素朴な優しい人柄は沖縄の海につながるものと思った。一番印象に残ったのは読谷

地はなくせないなら、安保をなくす政府を実現するため、本土でも頑張ろうではありませんか。



村の庁舎見学。憲法9条の碑をかかげ、村長自ら99条を守って基地返還の取り組みの先頭に立つて闘い、平和な村作りを進めてきたことだ。落下してきたトレーラーに圧殺された少女、チビチリガマの集団自決、起きたことへの聞き取り調査を基地返還の力に変えていった支柱が憲法だったとも知った。復帰時は村の土地73%が基地。1999年には43%に。そして近々全て返還されるとのこと。しかし、喜べない。わずかに見えた光明も根が深い。訓練地が伊江島に移されるだけ。私達にできることは何なのか。もう一度しっかり確認しなくてははいけない。

許しがたい不条理

土屋正子

事前の資料は、大変参考になりました。又現地の講師が直接調査した説明は詳しく、改めて沖縄をより深く知りました。それと当時の方の体験した事を聞き、どんなにつらく悲惨であったか、苦労は計りられません。そして各所には時を経て忘れぬ様にと、後世の人たちに伝える碑文がありました。私たちは沖縄にもっと関心をもち心を寄せなければいけません。国は戦場として沖縄に多くの犠牲を強い、その後も在日米軍基地の約75%を押しつけてきました。こうした沖縄への不条理は許されません。四日間の日程は充実してとても実のあるツアーでした。

